



Title	二つの警鐘
Author(s)	辻野, 直三郎
Citation	makoto. 1978, 23, p. 2-4
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86142
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

二つの警鐘

財団法人大阪防疫協会

理事長 辻野 直三郎

○はじめに

「地球は狭くなつた」この言葉にはいろいろな意味が含まれている。無線通信、航空機の発達はずさまじい時間的地域短縮をもたらし、従来船舶が外国への交通機関の主役をつとめていた時代にとって代つて地球人の文化、生活様式など各般の分野に多大の変化をもたらしたが世界人類に如何なる幸せを与えたかいなや、この実態は今後の歴史家の評価にまたなければならぬことであつて、にわかに功罪を論じがたい。しかし私達の関心の点として国際検疫病の關係につき、寸秒の考察をここに加えてみたい。

○コレラ菌汚染

性は従来にもまして非常に多くなつてきた。これらのうちコレラ、ペストの二つについて最近社会に話題を提供していることについて敬意をこめて言及致したい。

「横浜港コレラ汚染」

鶴見川河口で菌検出

四月一日付読売新聞によれば「横浜港コレラ汚染」の見出しで横浜港、鶴見川河口の海水が、エルトール稲葉型コレラ菌に汚染されていることが三十一日厚生省に連絡された。

現在のコレラ汚染国はケニア、ガーナ、ビルマ、インド、インドネシア、マレーシア、ベトナム、タイ、フィリピン、シンガポールなど東南アジアやアフリカの二十カ国であるという。このたびの鶴見川河口でのコレラ菌検出について横浜市、川崎市において河口近くの運河に、コレラ菌が二次汚染源になつて

いる可能性につき諸調査が行なわれた結果、川崎市衛生局で四月

十五日同市高津区鷺沼町の病院の患者用浄化そうからエルトール稲葉型コレラ菌を検出したと発表し、これが鶴見川水系コレラ菌の汚染源と断定した。しかしながら汚染ルートについては結論的解明はなされていない。ところろに大きな不安を今後に残している。なおコレラのことについては本紙第二〇号に「有田コレラの教訓」と題し拙稿を記したのでここに詳細な記述は省略致したい。

○ペスト・ネズミがいた

神戸港水際防疫に赤信号

これは四月十一日付日本経済新聞の見出し記事であるが、四月十四、五の二日間大阪商工会議所で第五十二回日本感染症学会総会（前伝染病学会を改称したもの）会長杉山茂彦先生のもとで開催されたが、その学会で大阪検疫所人見勝所長と鈴木莊介技官が最近の調査でペスト菌に侵され体内に抗体が出来ているネズミ数匹が神戸港で約半世紀

ぶりに見つかった件について報告をする。菌そのものは見つからないが現在でも日本でペストが流行する恐れが十分にあることが明らかになつたわけだ。同所長らは「早急に詳しい調査と防疫体制の強化をしなければならぬ」と警告している。

鈴木技官らは昭和四十五年以来神戸、大阪、坂出三港の倉庫を中心にネズミを捕まえ、ペスト菌の調査を行つてきた。この結果昨年までに神戸港で捕まえたネズミ約千六百匹のうち血液の中にペスト菌に侵されたことを示す「抗体」を持つネズミが四十六年一匹四十八年二匹五十年一匹の計四匹見つかった。調査方法は主に「血球凝集反応試験」という抗原抗体反応を利用した検査法。人間や動物の体に細菌（抗原）などが侵入すると、これに對抗するタンパク質の「抗体」が血清の中に作られ細菌を滅ぼそうとする。抗体は一度で

きると細菌が死んだ後も同種の細菌を受け入れないよう、そのまま消えずに残る。ペスト菌の一部を加工、調整して作った抗原をネズミの血液に加えるとペスト感染のネズミの血清に抗体があるため血球が凝集する反応を示す。このことから同検疫所では抗体のあつたネズミは外国のペスト流行地で菌に侵され運よく発病せず船で神戸港に運ばれたとみている。

○ペスト発生と流行の経路

さてペスト Pest 黒死病 Black death は主としてインド蒙古中央アジア、アラビアアフリカ地方に発生する伝染病でけつ歯類間（ネズミ、ウサギなど）に流行する獣疫であり病原体はペスト菌、ノミ、シラミなどを介して人を侵しネズミがその主役をなす。ネズミは

遷移の道——ついで断滅
ついで遷移——ついで断滅
断滅——ついで断滅

人体侵入経路は

イ、上気道粘膜又は皮膚創傷、接触

ロ、家ネズミ患者排せつ物、ハ、分泌物中の菌による飛沫

症状及び経過は

潜伏期 一—六日

腺ペスト、肺ペスト、皮膚ペスト、眼ペスト、ペスト敗血症など

一八九四年に香港で、北里博士、イエールサン両博士によるペスト病原菌は卵圓形の小桿菌にして両端鈍圓である」と発表された。昭和十八、九年頃ビルマ国に

別表第1号 検疫機関等調

機 関 名	機 置 数
検 疫 所	17 うち空港2 (東京・大阪)
検疫所支所	15 " 1 (那覇)
検疫所出張所	63 " 3 (新潟・福岡・鹿児島)
計	95 (従事者) 778人 (S52.4現在)

(S52厚生白書による)

私は滞在中何回かベスト菌に侵され斃死したネズミのなきがらを道路に散見したが内地の親猫大のネズミであった。おりよく滞在地域はベストの流行期(乾期?)で当時の戦慄感は今なお記憶にあらたなものがある。

○検疫の目的と検疫の起源
 検疫の目的は病原体(各種の病原となる微生物および植物の害虫などを含む)のまん延を防止を目的とする衛生措置の一つであるが検疫法第一条によれば国内に常在しない伝染病の病原体が船舶又は航空機を介して国内に侵入することを防止するとともに船舶又は航空機に関してその他の伝染病の予防に必要な措置を講ずることを目的とする」とあり、これを実施する機関

としての検疫所の数及び五一年中における検疫船舶数等は別表の通り(第1、4号)である。

検疫の起源
 ヨーロッパではクオランティン Quarantine と呼ばれ一四世紀にイタリアでベストの患者のいる船を四〇日間港外に隔離したことからクアラントイナ(四〇日の意)と称したことに由来しているとある。一九二六年にパリで定められた国際衛生条約は検疫の問題を最も包括的にとりあげたので日本も之に加わった。

海検検疫法一八九九年明治三二年法律第一九号

航空検疫規則一九二七年昭和二年内務省令第二七号を経て現在の検疫法は昭和二六年六・六法律第二〇一号により制定されその後数次の改正が行なわれた。

○検疫業務実施上の問題点

天候に支配されることが多い。
 1、大阪の場合十二月から二月にかけて地形の関係上特に季節の西風が強く、沖合に停泊中の船舶へ出動することが困難のため岸壁に接岸させ実施する。この場合此花・泉佐野までの広範囲にわたるので人員と時間的に苦勞が多い。

2、モヤがかかった場合、停泊の位置の確認が困難、特に大阪の場合海が浅くなっているため船舶が近寄らず図上と一致しないことがある。

3、四六年一月から無線検疫が実施され逐次増加し現在約その数五〇%に達しているが今後の検疫船舶数が増加の一途をたどるものであり改善が望ましい。

等があげられる。

○日本におけるベスト蔓延の歴史(兵庫県ベスト流行誌より抜抄)
 イ、本邦初期流行の発端

明治三十二年十一月広島市において台湾(現中華民国)より帰来せる旅人本病に罹り死亡したるものありと雖も何れも乗船地若くは船内における感染者のみなりしが、前記広島市における患者発見後数日即ち十一月八日神戸市において遂に1患者発生せり是れ内地における第一の初患者にして亦本邦初期流行の発端なりとする。

ロ、国外より侵入の経路

是よりさき明治二十七年清国廣東(現中華人民共和国)において初めてベストの流行

別表第2号 大阪におけるベスト罹患者数および死亡者数

年 区 分	38		39		40		41		42		43	
	罹患者	死亡者	罹患者	死亡者	罹患者	死亡者	罹患者	死亡者	罹患者	死亡者	罹患者	死亡者
大阪市西区	58	52	22	17	116	111	不	不	不	不	5	5
南区	43	34	92	76	292	267					5	5
東区	1	1	8	7	38	36						
北区	27	18	21	18	86	73					2	2
小 計	129	105	143	118	532	487	明	明	明	明	12	12
堺 市			1	1	1	1						
西 成 郡			3	3	4	4						
東 成 郡	1				3	2						
泉 北 郡		1			2	2						
泉 南 郡	1		12	10	2	1						
南河内郡					3	3						
中河内郡			1	1	1	1						
計	131	106	160	133	548	501	78	74	29	27	12	12

(大阪府統計書(M38.39.40.43)による)

を見るや未だ幾何ならずして香港に伝播し次て二十九年更に孟買を襲ひ比年相踵き病勢最も猖獗を極め遂に台湾を侵し台北、台南に惨害を逞ふし前者は百八十名後者は七十四名の患者を出し、その他基隆、斗六、鳳山等に於ても各十二名の患者を発生し爾來病毒は台湾にその巢窟を営み殆んど抜くへからざるに至れり。本邦内地に於ては二十九年以来三十二年に至るの間横浜、長崎、神戸、口の津等に於て香港及台湾より来航したる船舶内より患者を發見したること

十数回に達した。とあり明治の中期に至って外国より渡來、船舶がその伝播の重要な役わりをなしたことを証明している。

その後明治三十二年に大阪市内において三十一名神戸市において二十二名のコレラ患者の発生後三十三年に至り大阪市内において猖獗を極め百二十二名の患者を出し堺市郡部に蔓延した………是等病毒の輸入は如何なる経路なりしかを探究せんに固より一々明確に速断し難きものありと雖とも海外有病地方より

別表第 3 号 大阪における最終ベスト発生時期等調

発 生 年	大正 11 年		
	地 区	罹患者数	死亡者数
	大阪市南区	67 人	53 人
地区別罹患者数及び死亡者数	北区	14	6
	計	81	59
月別罹患者数及び死亡者数	月	罹患者数	死亡者数
	7	13 人	11 人
	8	0	1
	9	1	1
	10	22	19
	11	35	21
	12	10	6
	計	81	59

(大阪府統計書(T11)による)

り新に病毒を船、もたらした
ものなることは論を俟たず殊
に我邦の輸入最も多き米穀、
棉花等の産地たる印度地方に
於ては当時病勢頗る猖獗を極
めつつありたるを以て同地方
と交通ある船舶は何れも病毒
輸入の危険なしとせず就中三
十七年十月中旬横浜に入港せ
し英国汽船「シールダ」號の
如きは其の九月下旬ラングー
ンを発し新嘉坡を経て来航し
たるものにして横浜船舶中及
同港出發後十月下旬神戸及下
の関に於て棉花、米穀類等貨
物の陸揚を了し門司港船舶中

乗込水夫中に腺「ベスト」患
者三名を出したるト又横浜、
東京、下の関に於て該船積貨
物を収蔵せる倉庫内より続々
「ベスト」鼠を発見したると
により其の系統は専ら同船に
あるべしと伝へられたり。
と記せらる。その後大阪府下
においてベスト罹患者及び死亡者
数について三八年より四十三年
に至るものを調査するに別表第
2号による外、大阪におけるさ
しもの猖獗をきわめたベストの
終息年の大正十一年発生数等は
別表第3号の通りであり如何に
致命率の高きかに驚愕のほかは

ない。
○むすび
災害は忘れたときにやって来
る」の喩への如く最近の新聞記
事をまつまでもなく交通機関の
高速度発達地球を極端にまで
狭くし短時間で恐るべき国際検
疫伝染病は国内侵入のボーズを
形成している時代において、之
に對し重大な関心を払うべきこ
とは勿論「治にいて乱を忘れず」
の格言をいまこそ胸中に深く且
つこれが対応策を懸命に取組ま
なければ悔いを後世にのこすお
それなしとせずあゝ懼るべし。
乞うご叱正を
(六月十日稿)

別表第 4 号 昭和 5 1 年検疫実績等調

○ 船 舶 検 疫															
全 国 合 計	国 籍	総 ト ン 数 別 船 舶 数							船 舶 数 及 び 検 疫 人 員						
		5百屯 未 満	5百屯 以 上	1千屯 以 上	5千屯 以 上	1万屯 以 上	5万屯 以 上	10万屯 以 上	検 疫 区 域		岸 壁 等		無 線		計
		船 隻	船 隻	船 隻	船 隻	船 隻	船 隻	船 隻	船 隻	人 員	船 隻	人 員	船 隻	人 員	船 隻 人 員
全 国 合 計	日本	3,537	596	4,188	1,200	2,895	787	405	6,179	162,541	795	21,659	6,634	177,781	13,608 361,936
	外国	6,278	2,089	8,760	3,987	7,437	655	194	20,242	529,210	2,137	68,674	7,022	223,082	29,400 820,966
	計	9,815	2,685	12,948	5,187	10,332	1,442	599	26,421	691,751	2,932	90,333	13,656	400,863	43,008 1,182,902
○ 船 空 機 検 疫															
全 国 合 計	国 籍	航 空 機 数	検 疫 人 員												
			乗 組 員	乗 客 其 他	計										
全 国 合 計	日本	11,577	150,941	1,504,787	1,655,728										
	外国	25,330	294,469	2,970,592	3,265,061										
	計	36,907	445,410	4,475,379	4,920,789										

○厚生大臣の指定する検疫所の検疫課(細菌検査室設置)

東京、東京空港、横浜、名古屋、
大阪、大阪空港、神戸、門司、
長崎、計 9 カ所

(厚生省公衆衛生局・昭 5 1 検疫業務年報による)